

全国ホタル研究会新潟県関川村大会 関川村を会場に全国の研究者が集結

第50回全国ホタル研究会新潟県関川村大会が6月30日から2日間、関川村民会館を会場に開催されました。県内では、1994年の長岡大会以来2回目の開催で、ホタルの研究者や保護活動団体など、北海道から沖縄まで全国から約400人が参加しました。



▲健康づくり推進協議会の発表の様子

初日は、村の健康づくり推進協議会が、ホタルを鑑賞しながら行う健康ウォーキングの取り組みを発表。ホタルを活用したことで様々な年代層が参加してくれたことやホタルの光の美しさが与える癒やしがメンタルヘルスにも効果をあげている事業になっていることを紹介しました。



▲研究者からの質問を受ける中学生

ことをチャレンジしたいと発表しました。

その日の夜は、下川口で参加者による観察会と健康づくり推進協議会が紹介した健康ウォーキングも行われました。雨が心配されましたが、雨上がりに現れるホタルが、全国の参加者を歓迎しているようでした。

2日目には、大会開会式が行われ、全国ホタル研究会の遊磨正秀会長は、「ホタルが自然の恵みの重要性にあらためて気づかせてくれる」とあいさつし、大会実行委員長の平田大六村長も歓迎の言葉を述べました。その後、関川小学校の4年生が昨年の夏からホタルの飼育や観察を行ってきた様子を寸劇や歌を交えて



▶歌で会場を引き付ける関川小4年生

発表。「未来もホタル舞う関川村であるように」と思いを伝えました。

その後、専門家による研究発表があり、活発な意見交換が行われました。夜の交流・懇親会で、関川村でのホタル全国研究会は、次年度開催地の北海道稚内の「ホタルの住む故郷を造る会」へ引き継がれました。



▲歓迎セレモニーで「佐渡蛸」を披露する田村優子さん（平内新）



▲交流会でのミニ大蛇パレードの様子



もどらない。もどさない。

～ 第67回 社会を明るくする運動 ～

今年も7月を強調月間として“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～が全国一斉に展開されました。この運動は、全ての人が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築くことを目的に行われています。

村上岩船地区保護司会関川分区では、期間中の7月6日、更生保護女性会と合同で関川中学校の全校生徒に向けて啓発チラシの入ったティッシュを配布しました。

保護司の平田カツイさん(小見)は、「生徒の皆さんに犯罪・非行のない地域社会づくりについて考えてもらいたい」と笑顔で声をかけていました。この他にも、区長会との合同研修や標語入り物品の寄贈などの啓発活動が行われました。



全国小学生陸上競技大会出場! 100m新潟県予選会で優勝



渡邊椿樹さん(下関・関川小学校6年)が、8月18日から日産スタジアム(横浜市)で開催される全国小学生陸上競技交流大会の100m競技に新潟県代表として出場します。

椿樹さんは、7月9日にデンカビッグスワンスタジアムで開催された新潟県予選会で13秒00の自己ベストで優勝、全国大会の切符を手にしました。

普段はスポ少柔道で体を鍛えています。去年の荒川・関川地区陸上交換会での記録が忘れられず、もっと速く走りたいとの思いにかられ、4月から前関川小学校長の鈴木政信コーチに指導を仰ぎました。現在は、関川陸上クラブでの練習を含め、週3回の練習に励んでいます。

椿樹さんは、「全国大会での目標は、ベスト5に入ること。練習で13秒をきることも出来ているので、全国で記録を出してきたい」と抱負を語ってくれました。

▶ 贈呈された複製品



2008年からの取り組みで、県内では初となります。これにより、今まで劣化のおそれがあるため直接手で触れることが出来なかった伝統文書でしたが、直接手にとり和紙の感触を確かめることができるようになります。

贈呈式で富士ゼロロックス新潟の星野明文社長は、「ぜひ、村の発展の寄与にあててもらいたい」と複製品の活用に期待を込めていました。

この複製品は、7月19日から、歴史とみちの館で閲覧出来るようになりました。

7月13日、富士ゼロロックス新潟株式会社から村へ、「大里峠大蛇由来」の複製品の贈呈式が行われました。

これは、富士ゼロロックスの伝統文化継承に貢献する活動で、「せきかわ歴史とみちの館」にある古文書の和本「大里峠大蛇由来」の複製を高度な複写技術を駆使して製作し、この度村へ贈呈されたものです。



▲「大里峠大蛇由来」の原本

高度な技術で伝統文化を継承!
「富士ゼロロックスが
「大里峠大蛇由来」の複製品を製作」